

### ①「がんばる羽咋創生プログラム」について

**【質問】**これから羽咋市は全国の自治体と競争していくという気概や執念は。

**【市長答弁】**都市間競争に打ち勝つ気概や強い気持ちはもちろんのこと、市民や関係団体の皆様と一丸となり、攻めの姿勢で着実に進めていく。

**【質問】**羽咋市をより魅力的に、もっともっとPRしていくべき。

**【市長答弁】**プログラムのPRはもとより、実行に当たっては市職員をはじめ関係団体や市民の協力を得て、総力を挙げて取り組んでいく。

**【質問】**本市へのふるさと寄付金はいくらか。「赤字」の自治体もあるが本市は。近隣の自治体と比較して成果は。ポイント制度や金額帯を細分化・充実しては。数億円を集めるような、思い切った、話題性を集めるようなビジョンは打ち出せないか。

**【市長答弁】**664万円であり、本市への寄附金額の方が他市への寄附金額より上回っている。一定の成果は出ているが、今後、自治体間競争がさらに激しくなることが予想されるので、制度の見直しを行い、寄附金額の拡充強化に努める。

**【質問】**道の駅のトップ、リーダーには経営経験・経営感覚は必須。どういった組織が、どういった基準・タイミングで選定し、決定するのか。

**【市長答弁】**経営の専門家や道の駅の運営に精通した方による選定委員会の組織をし、選考する。早期に募集を開始し、施設の設計の段階から関わってもらえるようなタイミングで選定する。

**【質問】**POSやリアルタイムに生産者・出荷者にフィードバックするシステムの導入は。出荷者協議会・監査委員会の設置は。

**【市長答弁】**POSは大変有効なシステムなので導入していく。協議会などを組織し、消費者である市民の意見が反映されるような施設運営に努める。

**【質問】**外国人観光客のマーケットも狙い、サイン設置やスタッフの募集・育成を。

**【市長答弁】**外国人観光客の対応については機能強化に努める。

**【質問】**扱うすべての農産物を自然栽培にする方針を掲げては。

**【市長答弁】**自然栽培の農産物や加工品の販売は、道の駅の独自性や付加価値を高める上で有効であり、自然栽培農法の普及について強力に支援していく。

**【質問】**全国的に知名度の高い職員がいるので起用しては。

**【市長答弁】**適材適所であり、妙成寺の国宝化という大きな課題もある。羽咋の知名度を上げていきたい。

### ②自然栽培のさらなる活用について

**【質問】**JAと協力し、自然栽培の機能性のエビデンスを得ることや、認証制度を構築することを支援しては。

**【市長答弁】**県と市も構築に向けた作業に参加しており、認証制度の早期確立を目指している。

**【質問】**市内に移住して自然栽培を営む方に移住相談、就農相談に関わっていただければ、定住促進・就農支援につながる。

**【市長答弁】**移住ワンストップ窓口の設置や、地域おこし協力隊を配置し、新規就農者の移住や就農のサポートを実施する。

**【質問】**シルバー人材センターでも自然栽培にシフトする、あるいは新たに組み込んでいただくように働きかけてみては。

**【市長答弁】**シルバー人材センターにもと里山農業塾への参加をお願いし、自然栽培の普及促進を図る。

**【質問】**学校給食に今後もっと自然栽培の米、野菜を増やしていただき、授業などでも触れては。

**【教育長答弁】**自然栽培は、地方創生の観点からも重要な事業の一つであり、今後、JAと連携し普及拡大を図ることにより学校給食の利活用につなげていく。

### ③職員の方々の今後の事業の関わり方について

**【質問】**部制実施後は、事業立案・事業形成に幅広い職員、特に若い職員の方々が関わることが今後の人材育成にも重要と考える。

**【市長答弁】**政策形成能力等の向上を図るとともに、民間企業や先進自治体の事例などからも学びながら、羽咋創生に全力を挙げて取り組む。

**【質問】**市民のボランティア活動に参加したり、感謝やねぎらいの言葉をかけていただきたい。

**【市長答弁】**職員は地域活動ボランティアの重要性は認識しており、今後も職員に対して、自発的に活動に参加することや感謝の気持ちを伝えるよう促す。

**【質問】**駅東定住促進分譲地について、現在の状況・結果をどのように分析しているか。

**【市長答弁】**増税の駆け込み需要の反動をはじめ、駅近接であるため若者層に対して販売価格が高くなったこと、土地価格の下落傾向による買い控えなどが主な原因と考える。住まいづくり奨励金の拡充や販売対象の拡大及び不動産業者

へのあっせん報償費などで民間の協力も得ながら、積極的な分譲促進に努める。

**【質問】**モンベル社製品をぜひ特産品の一つに。アウトレットショップの開設を。スポーツイベントの実施を。

**【市長答弁】**特産品は同社と協議をしながら進める。アウトレットショップは地域活性化に結びつく活用策を期待しており、同社に働きかけを行っている。スポーツイベントは本市で開催できないか、同社と検討していく。

### ④子どもたちの安全安心を守ることに ついて

**【質問】**市内の小中学校で不登校の児童は何人か。不登校の場合でも、児童の顔や姿、つまり「児童の安全」を担当の教員は確認できているか。できていない場合、何らかの形で児童の安全を確認できる手段は。無理やり学校に行かせられることで、いじめを理由に自殺に至ったケースも多くある。生徒には、「時には逃げることも大事」というメッセージを先生やスクールカウンセラーから伝えているか。

**【教育長答弁】**不登校傾向にある児童生徒は19名。少なくとも週に一度は家庭訪問や電話連絡により、本人もしくは保護者と連絡をとり合っている。その際、生活の様子や心身の状況等を把握するよう努めている。

**【質問】**保護者も学校のスクールカウンセラーや少年育成センターに相談できるということは保護者に伝わっているか。保護者の利用状況は。利用度が低いのは、名称も一因ではないか。

**【教育長答弁】**臨床心理に専門的な知識、経験を有するカウンセラーが教職員と連携し、児童生徒に対して適切な取り組みを行っている。保護者の利用状況は、スクールカウンセラーでは延べ43件、少年育成センターでは2件。名称変更よりも少年育成センターが設置されていることを市民に幅広く普及啓発することを努めていきたい。

**【質問】**PTAに地域の方々に常任委員のような形で入ってもらったり、何らかの形で地域の方々に学校に関わっていただくなどして、保護者に対して一歩踏み込めるような体制に、教育委員会主導で近付けていくことはできないか。

**【教育長答弁】**学校評価委員会及び教育活性化懇談会には、PTAや地域の方々に入ってもらい、保護者、地域、学校が連携した特色のある開かれた学校づくりの推進を図っている。今後も子どもたちの安心、安全を守るため、いろいろな機会を捉えて地域の方々に関わっていただき、よりよい学校運営に努めたい。